

あとがき

目は心の鏡

専修大学スポーツ研究所長

佐藤 雅幸

「目は心の鏡」とは孟子の言葉である。目はその人の心を映し出す鏡のようなものだから、目を見ればその人の心のさまが読み取れるという意味である。ところが清く正しい人は、瞳も澄んでいるものだという意味である。

ここ数年、「目は心の鏡」と「潤すに愛満たすに智 貫くに信 すべてが健康の上に築かれる」という2つの言葉が私の心に響いている。

言葉は、とても大きな力を持っている。人は言葉で励まされ、勇気をもらうが、あらぬ言葉で大きなダメージを負ったり傷ついたりもする。

最近、松岡修造君のカレンダー「毎日、修造!」(PHP 研究所)が爆発的大ヒットしている。なんと、1月29日現在、55万部を突破した。朝日出版社から発行されている「起きあがりことば」もなかなか良いと思っているのだが、まだ世間に知られていない。修造君自身、この現象にとっても驚いていたが、現役時代も今も、一所懸命、限界に挑戦する毎日で

悩みの連続。そんな時、“言葉”によって気づかされ、救われて壁を乗り越えてきたという。修造君の生きざまと相まって読者の心を動かしたのだろう。

今年も「所報原稿」の締め切りに合わせたように、鼻がムズムズ、眼がかゆくなった。毎年のことだが、そうだ!保坂先生(眼科医)のところに行こう!・・・ということになる。お世話になって、かれこれ20年。カルテをみながら「昨年も同じ頃に来ていますね・・・それでは、診察しますから顎を台の上に置いて眼を大きく開いてください・・・」。ここ数年は花粉症の治療に加えて、加齢からくる眼の老化もあり、最新の三次元スキャン装置で眼の隅々まで診察して頂いた。

スポーツ心理学の授業では、学生に「目は口ほどにものを言う」「目を見ればその人の心がわかる」などと話していることもあり、診察を受けながら、自分の心が見透かされているようで少々気恥かしい。「佐藤さん、少し眼が

濁って(汚れて?)きていますね・・・」ドキッときた。その夜、久しぶりに実家に戻ってきた息子から「お父さん、最近目つきが悪くなったんじゃない?」とダブルパンチ。余計なお世話だと少し怒りモードで返答したので、ますます目つきが悪くなったのは言うまでもない。一人になって鏡を見てみると妙に納得。専修大学に入職した時の純粋な気持ちと澄みきった眼差しはどこへ行ったのか?長い経験がそうさせたのか・・・今一度、原点に戻る必要があると思った。

今年も専修大学スポーツ研究所には、素晴らしい人たちの訪問があった。シンポジウムでお招きしたパラリンピアン佐藤真海さん。私の友人でテニスのマリア・シャラポワのフィジカルトレーナーをしている中村豊君。そして3.11の被災地、仙台市に本社を構え、妥協なき姿勢で究極のサプリメントを提供している、ボディープラス・インターナショナルのディビッド・ホルトン社長。其々の道で、一流のチャレンジしている人物である。彼らには、気高



マリア・シャラポワのフィジカルトレーナー
中村豊



株式会社 ボディプラスインターナショナル代表取締役
デービッド ホルトン



サントリーホールディングス株式会社
オリンピック 佐藤真海

さを感じる。真理を探究する揺らがない信念、他人を思いやる愛情、知性、健康そして野性さを感じる。これらが大きなエネルギーとなり、眼差しとなって注ぎ込まれるのだと思った。

今の専修大学の体育会に欠けていて学べることがそこにある。場当たりに、どんなに良い施設ができようが、どんなにお金を費やそうが、そこに信念がなければ時間の浪費に終わる。二流の努力を10年積み重ねれば、本物の二流になる。信念無きリーダーのもとでの仕事は成功しない。年甲斐もなく攻撃的になったが、専修大学を思う気持ちの表れだとお許し願いたい。

話を元に戻す。この眼差し、感じどこか...

記憶を辿れば、そうそう、松岡修造君、錦織圭君でした。2014年、錦織圭君は、日本テニス界のみならずスポーツ界に大きなインパクトを与えてくれた。全米オープンテニス選手権で決勝に進出し、マレーシアオープンテニス、楽天ジャパンオープンテニスで優勝し歓喜の涙を流した。そして2015年1月の全豪オープンを経て、日本人として未知の世界ナンバーワンへの挑戦を続けている。

今年は、専修大学スポーツ研究所に名称変更して2年目。彼らのような素晴らしい人たちとの出会いによって、多くの事を学ばせて頂いた。その甲斐あって、文部科学省より「女

性アスリート支援事業」が採択され、新たな事業研究が始まっている。

私事、スポーツ研究所所長として5年目を終えようとしている。来年度は、締めくくりの年と考え「目は心の鏡」そして「潤すに愛満たすに智 貫くに信 すべてが健康の上に築かれる」の言葉を心に留めて、スポーツ研究所スタッフと共に心をつなげてチャレンジしていくつもりである。

最後になりますが、「2014年度スポーツ研究所所報」を発行する事ができたことをここに御報告させて頂くとともに、皆様の多大なご協力に対して心より御礼申し上げます。

SUIS SENSHU UNIVERSITY INSTITUTE OF SPORT

専修大学スポーツ研究所

佐藤 雅幸	野呂 進	吉田 清司
佐竹 弘靖	佐藤 満	飯田 義明
久木留 毅	齋藤 実	平田 大輔
時任真一郎	渡辺 英次	富川 理充
相澤 勝治	李 宇諤	

専修大学スポーツ研究所報 2014

平成 27 年 3 月 31 日
発行者 佐藤 雅幸
発行所 専修大学スポーツ研究所
〒214-8580
神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1
電話・ファクシミリ 044-911-1032
E-Mail sports@isc.senshu-u.ac.jp
デザイン 山岸淳デザイン(株)